

第86回 すこやかネットワーク 医療関係者向

日時: 3月27日(水) 19:00~20:00  
 場所: 松波総合病院 3階  
 テーマ: 『発熱の臨床 -発熱を主訴とした入院患者を中心に-』  
 講師: 松波総合病院 副院長・総合内科部長・  
 地域医療介護連携センター長 村山 正憲先生



かかりつけ医院のご紹介

羽島市 正木町の **今井田医院**



**内科 小児科**  
 休診日 日曜日、祝日  
 〒501-6217  
 岐阜県羽島市正木町  
 須賀小松47  
 ☎ 058-391-6530  
 FAX 058-391-6530

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後5:00~ 7:00	○	○	○	—	○	—	—

—:休診

院長: **今井田 二三子**  
 患者さまの心に寄り添い、また関連病院との連絡を密にして医療をうけていただけるよう心がけております。訪問看護ステーションの方々と協力して在宅医療も行っております。

羽島市 桑原町の **黒田医院**



**内科 泌尿器科**  
 休診日 日曜日、祝日  
 〒501-6321  
 岐阜県羽島市桑原町  
 八神4352  
 ☎ 058-398-8201  
 FAX 058-398-4136

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	—
午後5:00~ 7:00	○	○	○	—	○	—	—

—:休診

院長: **黒田 淳**  
 地域に密着した医療をめざしています。

患者さまと  
 病院をつなぐ  
 かけはし  
**No.161**  
 MATSUNAMI

# まっなみ

2013  
**3**

発行 社会医療法人 藤西厚生会 **松波総合病院**

## 開院は2014年夏! 一段とパワーアップする 松波総合病院に ご期待ください。

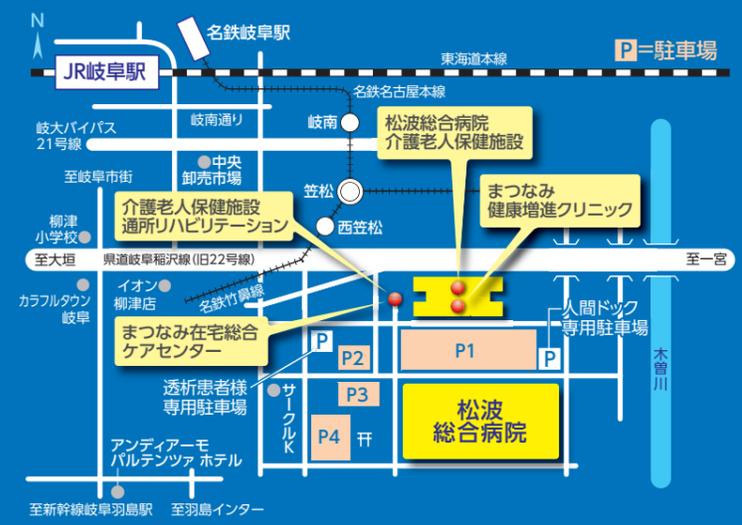


ヘリポートを備えた新館は鉄骨7階建てで、延べ床面積は約1万8千㎡。既存の本館とは渡り廊下でつながります。

松波総合病院は今、将来に向けて安心安全な医療を継続して提供するため、新館の建設を進めています。新館完成後は既存の本館も改修を行い、改修後は介護老人保健施設および新館での治療が済み安定した状態の患者さまを受け入れる病棟やリハビリテーションを主に行う病棟を配置します。工事期間が長くご迷惑をおかけいたしますが、患者さまには極力ご迷惑をおかけしないよう努めてまいりますので、ご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。

### こんな新病院をめざしています。

- **救急医療の強化・充実**  
 最新鋭の医療機器やヘリポートを備えた新館には262床の急性期病棟を整備。手術室も2部屋増やして7部屋(うち1室はハイブリッド手術室)にするほか、ICU(集中治療室)8床、HCU(準集中治療室)20床、MR2台、内視鏡室3室などを設け、外来をはじめとする急性期医療体制を強化します。
- **療養環境の向上**  
 1部屋あたり6ベッドから4ベッドへとスペースを拡大し、快適な病院に生まれ変わります。
- **災害に強い病院**  
 災害拠点病院として大規模災害発生時も機能を維持する、災害に強い病院とします。



遠方よりお越しの方

新幹線岐阜羽島駅	西笠松駅	松波総合病院
名鉄電車竹鼻線25分	徒歩10分	
	タクシー-20分	

名鉄岐阜駅	西笠松駅	松波総合病院
名鉄電車羽島行10分	徒歩10分	
	タクシー-15分	

名鉄名古屋駅	笠松駅	松波総合病院
名鉄電車急行25分	徒歩15分	
	タクシー-5分	

お気軽にお問い合わせください。  
**☎ 058-388-0111**  
<http://www.matsunami-hsp.or.jp/>

社会医療法人 藤西厚生会  
**松波総合病院** 〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町田代185-1

当院は、病院内・敷地内全面禁煙です。皆様方のご理解とご協力をお願いします。

### 新館の建設に向け、地鎮祭を執り行いました。

2013年1月23日午前10時より、松波総合病院・新館の地鎮祭が執り行われました。当日は晴天に恵まれ、来賓の方々や病院関係者、工事関係者などが多数参加され、工事期間中の無事故と安全を祈願しました。式の締めくくりに挨拶では、松波英寿理事長が地域住民の方々や関係各位への謝意を表明するとともに、松波総合病院の新たな医療提供体制の構築に込めた思いを述べ、地鎮祭は滞りなく閉式を迎えました。



「献入れ」を行い、工事の安全を祈る松波英寿理事長

## 薬剤部では、安心・安全な薬物療法をめざして入院時、持参薬の確認を行っています。



当院薬剤部では、患者さまがより安心・安全な薬物療法を受けられるよう、入院時に「持参薬」を確認させていただいています。患者さまがご入院されて間もなく、薬剤師が「お持ちになったお薬はありますか？」と病室をうかがっています。「持参薬」とは、患者さまが入院時にお持ちになった普段お使いになっているお薬のことで、飲み薬、目薬、貼り薬、塗り薬、注射薬など全てのお薬が含まれます。

入院患者さまの約70%が持参薬をお持ちになります。ジェネリック薬品(後発医薬品)の持参薬も

増えています。国はジェネリック薬品の更なる普及を推し進めていますので、今後もますます増えることが予想されます。ジェネリック薬品の普及によりお薬の名前を聞いただけではどのようなお薬か解りにくくなりました。薬剤師は、ジェネリック薬品も含めた全ての持参薬、サプリメントや健康食品、アレルギーや副作用に関する情報を早急に把握し、主治医が良質で安心・安全な薬物療法を行うサポートをしています。

入院の際は、お薬だけでなく、薬袋・お薬の説明書やお薬手帳も大切な情報源ですのでお持ちください。

### 持参薬確認のメリット

持参薬確認によって、患者さまには以下のような4つのメリットがあります。

- メリット1** 持参薬と、入院中に処方されるお薬との相互作用(飲み合わせ)がチェックされ、重複投与を避けることができます。
- メリット2** 医師から手術や検査前に服用中止の指示のあるお薬をチェックすることができます。
- メリット3** 普段お飲みになっているお薬の飲み方についてアドバイスすることができます。
- メリット4** 健康食品やサプリメントとお薬との飲み合わせについてチェックすることができます。

## 安心・安全の薬物療法が継続されるようご理解・ご協力をお願いします。

持参薬を管理させていただく中で、かかりつけの開業医の先生や、保険薬局に問い合わせをさせていただく場合がございます。お薬に関する正確な情報を得るために、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。また、退院の際には、お薬手帳にアレルギー歴や副作用

歴、入院中に使用したお薬に関する情報を記載して患者さまにお渡ししております。お薬手帳をお持ちでない患者さまには、無料でお薬手帳をお作りしております。



お薬手帳は患者さまに処方されたお薬の名前や飲む量、回数などの記録を残すための手帳です。医師や薬剤師がこの手帳を見せることで、同じ作用の薬の重複や良くない飲み合わせが避けられたり、治療方針を検討する際に役に立ちます。

薬剤部では、これからも患者さまの入院中そして退院後も安心・安全な薬物療法が継続されるよう、患者さまのお薬に関する情報の収集、発信をしていきます。お薬に関して、ご相談、ご要望があればお気軽にお声かけください。



安全な薬物療法を行うため、薬剤師は患者さまが院外から持ち込まれた薬を一つひとつ識別し、管理します。膨大な種類の薬があるので、調べるのに時間がかかることもあります。



## 小池作業療法士の作業療法編 リハビリまとめ知識

### 作業活動を通して認知症を予防しましょう。

作業活動とは、裁縫や園芸などの趣味活動だけでなく、食事や着替え、仕事や遊びなど、生活上のすべての活動のことを指します。

#### 認知症の症状

記憶障害(物忘れ)、理解・判断力の低下、実行力障害(計画して実行できなくなる)、徘徊など様々な症状があります。

「作業活動」で脳も生き生き、毎日楽しく過ごしていきましょう!!

#### 作業活動の効果

- ①手は脳への刺激を強く与える場所になりますので、特に指先を使う作業である、「折り紙」や「裁縫」、「手芸」などは効果的です。また、「料理」は手を使うだけでなく、レシピや手順を考えながら行うため、脳の活性化に有効です。
- ②屋外で活動することにより、季節の移ろいやその日の時間帯をより強く認識することができます。「洗濯物を外に干す」ことや「買い物に出かける」ことなど、ちょっとした心がけで脳を活性化させることができます。また、認知症の方でも、これらの活動をしっかりとして生活に組み込むことで、「自分が今どこで何をしているか」を認識するよい機会となり大変有効です。
- ③日常生活の中で、何か一つでも自分の役割を持つことは、程よい緊張感を与え、脳の活性化に繋がります。特に認知症の方にとっては、自分自身の存在価値を感じることができ、生活の質の向上にも繋がります。

## 横山薬剤師の 知ってトクする くすりのお話

### がん治療における分子標的薬とは?

「日本人の2人に1人はがんになり、3人に1人はがんで亡くなる」。これは最近よく耳にする言葉ではないかと思えます。実際のがんにかかる患者数は増加しています。しかし、がん自体が原因で亡くなる方は徐々に減少しています。\*1その要因の一つとして近年登場している「分子標的薬」が挙げられると思えます。今回は分子標的薬についてのお話をしたいと思います。

一般的な抗がん剤はがん細胞だけでなく、正常な細胞

にも影響を及ぼしていましたが、分子標的薬はよりがん細胞に対して効果を出すように設計された薬です。しかし、副作用がなくなるわけではなく、今までの抗がん剤とは異なる副作用が報告されています。抗がん剤の副作用として多くの方がイメージするのは「吐き気」や「脱毛」だと思えますが、そういった副作用は少なく、代わりに「高血圧」や「たんぱく尿」など、薬剤ごとに特徴的な副作用があります。副作用が様々で、それに合わせた対策も必要となるので、当院では初めて治療を受ける患者さまに対して薬剤師による説明ができるような体制をとっています。もちろん、がんとは無縁で暮らすことが一番ですが、万が一治療が必要となった場合には、わからないこと、不安なことは遠慮なく聞くようにしてください。

\*1 がん罹患数、がん死亡数は年齢調整を加えたデータを参考としています。

## まつなみinformation

### “笠松友の会”新年会を開催しました。

平成25年1月17日、当院に事務局を置く失語症友の会「笠松友の会」は毎年恒例の新年会を開催しました。参加者は失語症者さま及びそのご家族さま17名と引率の職員2名の合計19名。今回の会場は岐阜市の中華料理店 浜木綿(はまゆう)を選びました。店内は車椅子で移動できるように設計されており、滞りなく席につくことができました。静かで煌びやかな雰囲気のおかげで、本格的な中華料理が次々と運ばれ、参加者の目と舌を喜ばせました。これまで新年会で何度か利用しているグランドホテルとは異なった趣があり、「こういうものもいい」と皆さま口ぐちにおっしゃいました。車椅子を使用しており、頻繁に外出することができない方も多いため、このような会が良い機会となっているものと思われま。今後も会員の皆さまに楽しんでいただけるよう企画していきたいと考えています。

